

地域発 防災ラジオドラマ in つくば いなほ幼稚園 地震編 1

「幼稚園関係者の地震直後の対応」

前提条件メモ（読まない）

ある冬の平日、午前9時半ごろ、茨城県つくば市に直下型の地震が発生する。つくば市の震度は6・つくば市前野にあるいなほ幼稚園では、朝の登園時間にあたっている。幼稚園の関係者（職員・保護者）、地域の関係者が中心となって、災害発生日を乗り切っていく。

第1話 登場人物（イメージ）役割・立場

- ・園長先生（女性：年配の方）幼稚園全般の総責任者。
- ・教務主任先生（男性：若い方）幼稚園の実務的リーダー。元気な青年。
- ・君島（さとこ）先生（女性：若い方）あるクラスの担当。
- ・若森（あゆみ）先生（女性：若い方）バスの添乗担当。携帯電話を所持している。
- ・本田先生（男性：中年の方）送迎バスのドライバー。ベテラン。園の力作業も受け持っている。
- ・清水さん（女性：若い方）子供を自家用車で園まで送ってきた母親。声が大きい。
- ・大貫さん（女性：若い方）子供を園バスで送り出し、自分はTXで東京に向かっている。
- ・健太君（男の子：園児）
- ・みうちちゃん（女の子：園児）
- ・その他園児の声

解説（ナレーション：毎回共通）

独立行政法人・防災科学技術研究所では、災害時に地域に起きることを住民主体で考えるための方法として、地域の災害シナリオの作成を提案しています。災害シナリオは、行政が作成した各種災害の被害想定やハザードマップを下敷きにして、地域の「より細かい事情」を勘案して、災害時に実際に起きることを時間に沿って具体的に整理して記述したものを指しています。災害シナリオは、地域の関係者が具体的に自分たちの直面する事態を考える仕組みづくりのきっかけとなるものです。シナリオにすることで、事態の展開していくイメージが掴みやすくなり、必要な対応もわかりやすくなります。

プロローグ（ナレーション）

冬晴れの朝、つくば市前野にある「いなほ幼稚園」は、いつものように園児の明るい笑い声が響いています。いなほ幼稚園は園児数が360人を超えるつくば市内屈指のマンモス幼稚園です。園児はつくば市のほぼ全域から通ってきており、朝の8時頃から6台の送迎バスが地域を回り園児を収容しています。現在は最初の送迎作業が終わり、各バスは2回目の送迎に地域を巡回しています。園には子供を自家用車で送ってきた保護者も数名到着しています。

注意（脚本内の青文字は状況説明のための記述であり、読まない）

【オープニング】ざわざわした雰囲気

園児多数：おはようございまーす

君島（さところ）先生：おはようございまーす。あらっ！健太くん、おでこのひっかき傷はどうしたの？

健太：昨日転んじやったんだ。

君島（さところ）先生：本当？誰かとけんかでもしたの？

健太：けんかじゃないよ。パパと遊んでいて転んだんだよ。

君島（さところ）先生：痛かったねえ…。健太君は元気だからねえ。気をつけないとだめだよ。

みう：さところ先生、おはよおく！今日は何して遊ぶの？

君島（さところ）先生：あら、みうちちゃん。おはようー。

園の中は子供たちの話声であふれている。（ざわざわ）

突然かたかたという音がしはじめる。徐々に大きくなる。

ざわついていた教室が、静まり返る。

次の瞬間、ごーつという音とともに教室が大きく揺れ始める。園児の悲鳴が響く。物が倒れる音など。

君島（さところ）先生：地震だわ！大変みんなずきを被って。被って。

園児たち：きゃー（さまざまな声）

ガチャンというガラスが割れるような音、何かが落ちたようなドシンという音。

20秒位の効果音。その後シーンとする

園児：「おー、すごいすごい」などの声。「地震だよ」などの声。

全体がざわつき始める。

君島（さところ）先生：全員園庭に出ますよ！防災頭巾を持って急いで！

園児：一斉に動き出す（ガタガタした音）

（ナレーション）

そのころ園バス的一台は園児たち8人と添乗の先生一人を乗せて、最後のピックアップに向かっていました。バスが小さな橋をちょうど渡り切ったところでした

本田先生：あれっ！何か・・・

若森（あゆみ）先生：どうしました？
本田先生：どうも・・なんかちよっとおかしい

バスが停まる。ゆさゆさ揺れてバスの車体がやや軋る音。
園児は気付かずワイワイ騒いでいる。

若森（あゆみ）先生：地震ですかね？

本田先生：うん、どうもそうらしい。ちよっと様子を見たほうがいいね。

（ほどなく揺れはおさまり、あたりは静かになる）

本田先生：なんともないようだね。じゃあ出発します。

若森（あゆみ）先生：はい。

バスのエンジン音（加速）。しばらくして再びブレーキ音。停止する。

本田先生：あの先でブロック塀が倒れてるぞ。

若森（あゆみ）先生：あらやだ。通れませんか。

本田先生：うーん。ちよっと様子を見てくる。ここで待ってて。

本田先生がドアを開け、出て行く。

若森（あゆみ）先生：（園児に向かって）みんな大丈夫ですからね。そのまま座っていてね。

園児：はーいという声。（また賑やかなおしゃべりになる）

しばらくして本田先生が返ってくる。バスの扉をあける音。

本田先生：（乗り込みながら）地震で崩れたみたいだ。2軒先の家は傾いているよ。ブロック塀も倒れている。ちよっと戻ったほうがいいかもしれないな。

若森（あゆみ）先生：そうですか。大丈夫かなあ（やや不安げな声）

再びエンジン音。転回して戻るバス。やがて再びブレーキ。

本田先生：何だい、橋にひびが入っているみたいだぞ。ちよっとヤバイかも。

若森（あゆみ）先生：無理しないでくださいよ。

本田先生：（若森）あゆみ先生。ここで停めて、ちよっと「う回路」を探してきますから、一応園に電話を入れてみてくださいませんか。

若森（あゆみ）先生：わかりました。

携帯電話で園にかけようとする。

発信音：しばらくして「おかけになった電話番号はただいま大変掛かりにくくなっています

す。しばらくしてからおかけ直してください。」というアナウンスが流れる。

若森先生：やだわ。電話が通じない。

(間)

(ナレーション)

そのころいなほ幼稚園では、園庭に出た園児たちを先生方が総出で確認していました。子供たちは相変わらず賑やかに騒いでいます。

主任先生：園長先生。9時40分現在。登園済みの園児192名は全員無事です。けが人はいませんでした。吉村先生がちよつと・びっくりして腰をぶつけたらしいです。机に。いまスタッフが手当てしていますが・大したことはなさそうです。

園長先生：ご苦勞様。こわかったわね。そういえば余震が来るかもしれないから、みなさん気をつけてくださいね。テレビはなんて言っているかしら。

主任先生：地震と同時に地域が停電したみたいです。いま発電装置を見に行ってもらっています。電気が回復しないとテレビはつかないと思いますね。

園長先生：じゃ、ラジオで情報収集しましょう。主任先生と(君島)さとこ先生は園長室に来てください。

ラジオの放送(ナレーションで)

(こちらはラヂオつくばです。ただいま大きな地震が発生しました。火を使っていた方は落ち着いて火の始末をしてください。無理せず、安全だと思われるところに避難してください。周囲で怪我や救出を必要としている人がいたら声を掛け合って助けてください。)

園長先生：まだどこで起きた地震だかわからないわねえ。とりあえずあれだけの揺れだったのだからそうとう大きい地震だと考えたほうがいいわね。

主任先生：そうですね。でもここは比較的地盤がいいから、建物も大丈夫だったように思いますが、スタッフにお願いしてとにかく一通り調べてもらいましょう。

園長先生：お願いします。じゃ、(君島)さとこ先生は、ほかの先生方に指示して、これから園児を迎えに来る親がいると思うので、その場合は順次相手を確認して引き渡して下さいと言つてね。

君島(さとこ)先生：はい。

そこに園児の母親の一人清水さんが入ってくる。

清水さん：園長先生！まあ大変な地震でしたわねー。

園長先生：これは清水さん。お怪我はありませんか。

清水さん：お怪我なんて、あなた、私は大丈夫ですわよ。でもさすがにいなほ幼稚園ですわね。あれだけの地震でもびくともしていませんわね。

園長先生：まだ細かいところは点検しないといけませんけどね。もうしばらくは庭で安全

確認をお待ちください。お宅は大丈夫ですか。

清水さん：あらやだ。うちのほうはどうなっているかなんて、考えもしなかったわ。ユキちゃん！ユキちゃん！帰りますよ！（子供のほうに向かっていく。バタバタ言う足音。）

園長先生：（ため息をついて）長い一日になりそうだわ。

バスの車内では、ドライバーの本田先生と若森先生が相談している。バスの周りは田園地帯だが、少し先の集落では住民たちが出てきて動き回っている。（ざわざわした雰囲気）どうやらこの先の家で火災が起きているようだ。（遠くでサイレンの音が聞こえてくる。）

本田先生：通じませんか。

若森（あゆみ）先生：ええ、ちょっと難しいみたいですね。

その時、携帯電話が鳴る。（着信音）

若森（あゆみ）先生：もしもし。ああ主任先生！よかったー。どうしようかと思っちゃいました。

主任先生：（冷静に）いまどこですか？

若森（あゆみ）先生：ちょうど西谷田川の橋を渡ったところです。バスのほうは全員無事ですが、この先の集落で火事が起きているみたいなんです。ブロック塀も倒れているし。主任先生：そうですか。では運動公園のほうを回って、いったん園に戻ってきてください。そっちのほうは保護者の方からの情報では大丈夫みたいですよ。

若森（あゆみ）先生：わかりました。ではそうします。（本田先生に向かって）運動公園のほうを回って、園に戻ってくださいって。

本田先生：わかった。じゃあ出るとしよう。

車の発信音。加速音。

（しばらく間）

電話を置く音。

（しばらく間：間奏）

主任先生：すべてのバスに連絡が取れました。もう間もなくすべて到着すると思います。園長先生：助かったわ。これで一安心ね。

君島先生：災害時に優先的につながる電話があって本当に良かったですね。

園長先生：そうね、とりあえず電話で連絡が取れるとほっとするわね。

主任先生：あとはメールですね。電話より繋がりやすいですよ。

園長先生：ええ、保護者のみなさんにも安心通知のメールを出せる体制を早く整備したいわね。

君島（さとこ）先生：でも、メールアドレスを教えてくれない方もいますでしょう？

主任先生：それは仕方がないね。プライバシーの問題ですからね。でもこういうときに安心のメールが届くといえれば、理解してくれる人も多いんじゃないかしら。

その時、別の園のスタッフ（女性）が入ってくる。園長先生に何か伝えている。

園長先生：え？・・・ああそう（話を聞いている）

主任先生：どうしました？

園長先生：いえ、さくら組の大貫みうちちゃんのお母さんから電話が入って、TXが停まっちゃって、にっちもさっちもいかないって。たまたま電話がつながったみたいよ。あの自宅は共働きで、お二人とも都心に勤めているのよね。今日はいつものようにお迎えに来れるかしら。

主任先生：一難去ってまた一難ですか。

（第1話 終わり）

（クロージング：ナレーション：毎回放送）

このドラマは、住民をはじめ行政など地域のさまざまな関係者が協力して、災害時に想定される事態や対応について話し合い創作されたフィクションです。ドラマのシナリオづくりの過程では、地域社会の実態を調べ、かつ、行政の防災計画や防災体制、被害想定、ハザードマップ、マニュアルなどの公式な情報を参考にしていますが、社会的なシミュレーションとして、また、今後の改善の視点を盛り込むなどの理由から、意図的に事実と異なる設定をしている場合があります。

本ドラマに関するご意見、ご感想などを、独立行政法人防災科学技術研究所、またはラヂオつくばまでお寄せください。

配 役	氏 名
園長先生（女性）年配・穏やかな方	
主任先生（男性）若い方・家庭第一？	
君島（さとこ）先生（女性）若い方・よく気がつく	
若森（あゆみ）先生（女性）若い方・バス添乗	
本田先生（男性）年配・バスドライバー	
清水さん（女性）若い方・保護者・元気	
大貫さん（女性）若い方・保護者・都心勤務	
健太君（男の子）	
みうちちゃん（女の子）	
酒巻さん（男性）年配・健太君のおじいちゃん	
神保さん（男性）年配・避難所の役員	